

January 2003

注目ニュースや新製品
話題のサービスをまるごと掲載

News eye p204

Service & Product News p209

Service & Product Pick Up p214

- ハードウェア
- ソフトウェア
- サービス
- キャンペーン・告知
- その他

松下も開発に着手してPCメーカーは9社に 11月7日に発売されたタブレットPCは 新世代PCとして広がるか

マイクロソフトは11月7日、ペンで操作して手書き入力もできる新世代PCとして提唱しているウィンドウズXPの最上位OS「ウィンドウズXP Tablet PC Edition」を正式に発表した。パッケージ版はなく、プレインストールされたPCが各社から出荷される。

マイクロソフトの阿多親市社長は「タブレットPCの原点は1992年の“ウィンドウズ for Pen Computing”まで遡る。これまでPCの大きさやバッテリーの持続時間など多くの問題があったが、技術の進化でついに機は熟した」と、一般消費者向けに本格投入する環境が整ったことを強調した。また、ペンコンピューティングについては「より人間に優しいペンを使えるのはもちろん、キーボードやマウスも使えなければならない。既存のアプリケーションとの互換性はもっとも重要なことで、ペンを使うために何も機能を犠牲にしてはいけないのだ。また、医療機関など特定分野向けに特化してもいけない」と、過去10年間の開発経験から学んだことを挙げて「タブレットPCから新しいコンピューティングの世界が広がる」と意気込んだ。

11月7日に発売したのはソーテックと富士通、11月8日に発売したのは東芝と日本エイサーで、その後の予定は、12月中旬に日本ヒューレット・パッカード、12月中にペー

スプレッドジャパン、年内にビューソニックジャパン、2003年1～3月にNECとなっている。NECのタブレットPCの詳細は未決だが「インテルのモバイルペンティアム、無線・有線LANを搭載し、厚さ15mm、重さ1kg以下を目指して開発している（NECソリューションズ クライアント・サーバ事業部事業部長代理の百瀬裕也氏）と言う。また、この8社に加えて松下電器産業もタブレットPCの開発を表明したことが、阿多社長から発表された。発売時期やスペックなどは、まだいっさい不明だ。

初披露された異色の 「Compaq Tablet PC TC1000」

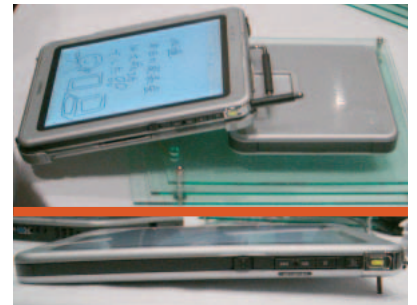
発表会場では9社のうち5社のタブレットPCが公開され、ひときわ注目を集めたのが初披露された日本ヒューレット・パッカードの「Compaq Tablet PC TC1000」だった。タブレットPCは、ノートPC型でモニター部分が回転する「コンバーチブル」と、キーボードがなく平たいパネル形状の「ピュアタブレット」の2つの型に分かれる。TC1000はこの2つの型が融合した機種で「利用する環境や好みに合わせてノートにもデスクトップにもさまざまに変化する。これを“トランスフォーム型”と呼んでおり、新生HPの



マイクロソフトの阿多親市社長（右から3番目）と、タブレットPCを披露するソーテック、東芝、NEC、日本ヒューレット・パッカード、富士通の各代表者。世界14か国で発表されたが、時差の関係で日本が最初の発表となった。



ワコムが、高級筆記具で著名な米国A.T.クロスと共同で2003年春に発売を予定しているタブレットPC専用ペン。キャップ付きとキャップなしの2タイプがあり、電池は必要ない。



TC1000は、ドッキングステーションに合体させた状態でもペンを簡単に使えるようにするため、手前に引き出せる(上)、本体裏側のつまみ(チルトスタンド)を引き上げると、斜めになって書きやすい(下)。

Compaq Tablet PC TC1000
 (日本ヒューレット・パッカード)
 実勢価格: 219,000円 発売日: 12月中旬予定
 CPU: トランスメタ Crusoe TM5800 1GHz
 HDD / メモリー: 30GB / 256MB
 サイズ / 重量: 274 × 216 × 20mm / 約1.36kg(本体)
 バッテリー駆動時間: 約4時間以上
 タイプ: ビュアタブレット / コンバーチブル

初めてのPC製品だ(取締役副社長パーソナルシステムズ事業統括の馬場 真氏)と独自性をアピールした。

一方でタブレットPCに対応したソフトウェアの提供を予定しているベンダーは、新たに17社が加わって合計33社になった。米国を上回り、ベンダー数は世界でもっとも多い。

また、マイクロソフトからOffice XPで手書き入力機能「デジタルインク」を使えるようにするアドオンパック「Office XP Pack for Tablet PC」(タブレット Pack)が、11月7日から無償でダウンロード提供された。このほか、画面キャプチャツール「Snipping Tool for Tablet PC」やビリヤードゲーム「Pool for Tablet PC」などのユーティリティー集「PowerToys」も英語版のみだが11月8日から無償で提供されている。

さらに、ペン入力タブレットメーカーのワコムは、筆記具メーカーの米国A.T.クロスと共同でタブレットPC専用電子ペン「ペナブルエグゼクティブペン」を開発したと発表した。このペンは、2003年春に発売予定で価格は未定。東芝やNEC、富士通、日本エイサーなど、ワコムのタブレット技術「Penabled Technology」を採用しているタブレットPCで使える。

注目されるタブレットPCだが、価格帯が20万円台前半から30万円と比較的高価で、これを消費者が受け入れるかどうか、まずは鍵となるだろう。



AFiNA Tablet AT380B (ソーテック)
 実勢価格: 259,800円 発売日: 11月7日
 CPU: モバイル インテル Pentium 800MHz-M
 HDD / メモリー: 30GB / 256MB
 サイズ / 重量: 256 × 30.0 × 216.5mm / 約1.5kg
 バッテリー駆動時間: 約3.95時間
 タイプ: コンバーチブル



DynaBook SS 3500 PP3501EP2HST (東芝)
 実勢価格: 269,800円 発売日: 11月8日
 CPU: モバイル インテル Pentium 1.33GHz-M
 HDD / メモリー: 40GB / 256MB
 サイズ / 重量: 295 × 234 × 32.8mm / 約1.85kg
 バッテリー駆動時間: 約4時間
 タイプ: コンバーチブル

完全に「ノートPC」の形を踏襲しているコンバーチブル型が、ソーテック(左)と東芝(右)のタブレットPC。東芝はOffice XP搭載モデルもある。富士通(下)はビュアタブレット型で、ワイヤレスキーボードとマウス、CD-R/RW / DVDドライブを搭載したドッキングステーションが付属する。



FMV-STYLISTIC TB80X (富士通)
 実勢価格: 298,000円 発売日: 11月7日
 CPU: モバイル インテル Pentium 800MHz-M
 HDD / メモリー: 40GB / 256MB
 サイズ / 重量: 301.3 × 220 × 22.3mm / 約1.48kg
 バッテリー駆動時間: 約4.4時間
 タイプ: ビュアタブレット

NEC TabletPC (NEC)
 2003年1～3月予定



TabletPC V1100 (ビューソニックジャパン)
 2003年年内予定

発売を予定している3社はいずれもビュアタブレット型。NEC(右上)はコンセプトモデルで色や形状などが変わる可能性もある。ビューソニックジャパン(右中)とベースブレッドジャパン(右下)は、米国で発売されているモデルに準拠する見込みでオプションが豊富。

PaceBook Tablet (ベースブレッドジャパン)
 12月予定



ISP間無料通話を実現する2大陣営 個人向けIP電話サービスの 実証実験を12月に開始

050番号認可申請に合わせ
いち早く使うIP電話

NTTコミュニケーションズ株式会社、ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社、およびニフティ株式会社は11月14日、3社が運営するOCN、So-net、@niftyの各会員向けにVoIPによる電話サービスを提供することを発表し、12月中旬から試験サービスを行うとともに、3社間での相互接続においても、同時に実証実験を行うことで合意した。一方、ブロードバンド事業の拡大を目的としたメガコンソーシアムを推進するKDDI株式会社(DION)、日本テレコム株式会社(ODN)、日本電気株式会社(BIGLOBE)、松下電器産業株式会社(Panasonic hi-ho)の4社も11月15日、各会員向けに提供する予定のIP電話サービスの相互接続で合意に達した。これにより、総会員数で前者約1100万人、後者約1000万人がIP電話を利用できるようになる。

このタイミングで個人向けIP電話サービスのプロバイダー間相互接続の合意を発表したことは、IP電話市場で契約者数を急速

に伸ばすYahoo! BBを追従する意味もあるほか、2003年夏の「050」本格始動に合わせたものだといえる。ブロードバンドの急速な発展にともない、IP上で提供するサービスが模索される中で、とりわけユーザーの立場に立った格安のIP電話の提供がブロードバンドサービスで「あたりまえ」になることを予感させる今回の実験だ。

パソコン不要の使い勝手に 固定電話に肉薄する

各社の試験サービスでは、大まかな仕様は同一で、各家庭にVoIP内蔵のモデムを設置するか、あるいは既存のモデムにVoIPアダプターを付ける2パターンで提供する。これらのモデムやアダプターに、今使っている電話機をそのまま接続でき、ユーザーは通常とほぼ変わらぬ操作で電話ができる。ダイヤルされた呼情報によって、どこへ接続すべきかを交換機が自動判別し、IP網や一般回線へ接続する。どの回線を利用しているかは、アダプターのランプの点灯や音で通知される。この方法は、VoIP内蔵モデム



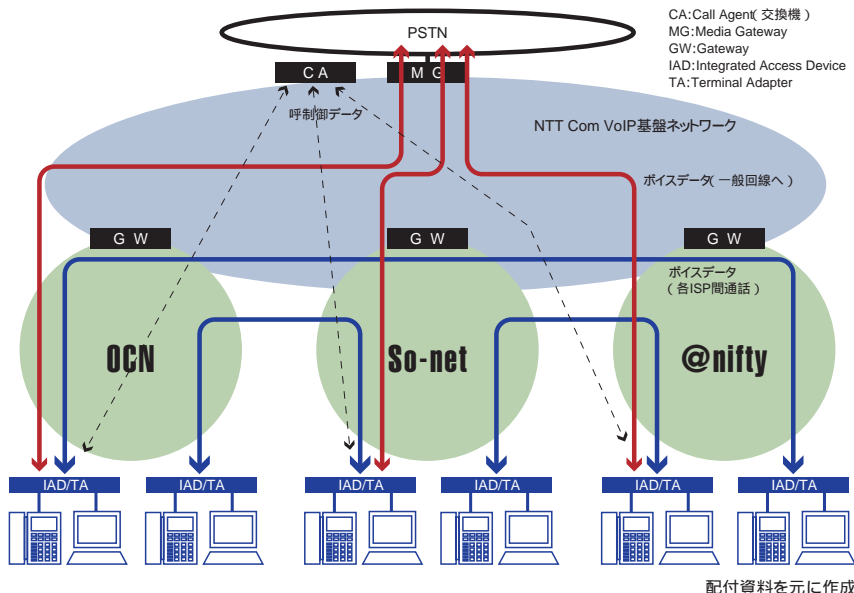
左から、NTTコミュニケーションズ コンシューマ&オフィス事業部長 前田幸一氏、ニフティ 常務取締役システム事業部長 加藤雄一氏、ソニーコミュニケーションネットワーク 取締役専務 近藤幸直氏。

を提供するBBフォンと同様だ。

他に先駆けてモニターを公募しているDIONでは、12月5日まで募集し、12月10日から試験サービスを開始する予定だ。試験期間中は初期費用や月額基本料、IP電話間の通話は無料。ODN、BIGLOBE、Panasonic hi-hoも順次試験サービスを開始し、2003年3月いっぱいでの4社間による相互接続試験も完了する。OCN、So-net、@nifty3社の相互接続試験では、それぞれ12月中旬から順次VoIPの試験サービスを開始し、2003年1月から3社間での相互通話試験を実施する。その後、3月から本サービスの提供を開始する予定だ。試験期間中、IP電話同士の着信で050番号を利用し、将来的には家庭の電話1台で従来からある一般回線用の電話番号とIP電話番号(050)の2つを持たせるといふ。

それぞれのインフラ部分はKDDIと日本テレコム、NTTコミュニケーションズのVoIP基盤ネットワークを利用するが、So-netや@niftyなどはマルチキャリア対応のスタンスをとっており、今後は他社のIPネットワークにも接続される可能性があるという。また、BIGLOBEとPanasonic hi-hoは、このISP3社との相互通話における技術的な実証実験に参画することもすでに発表している。一方、メガコンソーシアム推進側も来るものを拒まずの姿勢で参加プロバイダーを増やしていく意向だ。この2大陣営やBBフォンをまたいだIP電話の接続は不可能だが、将来的にはこの点がIP電話普及のカギとなってくる。なお、本サービスでの諸費用は、DIONのみ初期費用1,000円、月額基本料390円と公表している。

VoIPの実現イメージ(ISP3社)



IPサービスの強化を進める電力系キャリア パワードコムとTTNetが 来年4月に合併

株式会社パワードコムと東京通信ネットワーク株式会社(TTNet)は11月19日、合併に向けての合意書を交わしたことを発表した。合併期日は2003年4月1日の予定で、新会社の名称は「株式会社パワードコム」となる。今回の両社の合併は、法人顧客が集中する首都圏でサービスを一体化することで、アクセスにおいて、地域インフラから長距離アクセスまで一元的なサービスを提供できる体制を整えることがおもな趣旨としている。現在、パワードコムは全国に企業向けの専用線サービスを、TTNetは関東エリアに電話サービス(東京電話)や個人向けインターネット接続サービスを提供しているが、こうしたサービスエリアについては変更はない。

パワードコムの種市健社長は「今回の合

併で、首都圏にアクセス系のインフラを持つ全国規模の通信事業会社が誕生する。法人ユーザーの需要の半数は首都圏に集中しており、特に広域イーサネットのサービスは新生パワードコムの利益を確保する事業」として、この分野に経営資源を集中する方針を明らかにした。また、TTNetの白石智社長は電話事業について、「東京電話はレガシーな電話サービスだが、パワードコムの持つ光ネットワークを活用したIP電話の展開も可能」と語り、IP電話への参入を表明した。TTNetは、すでに2003年3月からのIP電話サービスの提供を表明しているが、今回の会見では法人向けとしては高速データ通信とのセット、個人向けにはADSLやFTTHとのセットと、回線をセットにした形で販売を予定していることが公表さ



合併に合意したパワードコムの種市健社長(左)とTTNetの白石智社長。

れ、より具体的なサービスに近づいている。

また、新会社では意思決定を迅速化するために、現在両社で合計27人いる取締役を10人程度にスリム化し、執行役員制度を導入して責任体制の明確化を図る。新会社の社長には現TTNet社長の白石氏、会長には現パワードコム社長の種市氏の就任を予定しており、役員には電力系通信会社である大阪メディアポート株式会社(OMP)、中部テレコミュニケーション株式会社(CTC)の社長や電力会社の代表などが加わるとしている。

発想を変えたトラフィックとセキュリティ管理 F5 ネットワークス、「アプリケーション・ トラフィック管理」製品を発表

長野弘子

インターネットトラフィック管理(iTM)市場を率いるF5ネットワークスは、「トラフィック管理(TM)技術は通信プロトコルからアプリケーションの種類や内容にまで細かく対応するようになり、劇的に変化した」と主張する。10月31日に発表された次世代のTM製品「BIG-IP」は、HTTPやSSLパケットのみではなく、ウェブサービス用のXML / SOAP、モバイル向けのiモード / SIPS / SMS / MMSにも対応、携帯電話の番号やXMLペイロード情報を基準にスイッチングやフィルタリングを行うことができるという。エリック・ギーサ管理/プロダクトマーケティング部長は「たとえば、データベースの読み取りが書き込みより何倍も多い場合、読み取りの帯域幅を増やすことで、ネットワークへの付加を大幅に抑

えることができます」と語る。

新BIG-IPのコア技術になるのが、特許出願中の「Universal Inspection Engine」(UIE)と「iRules」だ。UIEはTCP/IPヘッダーやペイロード値の内容を識別し、iRulesはその内容に従って処理を実行する。マイクロソフトやオラクル、ウェブロジックなど特定ベンダーのアプリケーションサーバーのカスタム値とも連動している。ティム・グッドウィン代表取締役は「現在、ウェブサービスやモバイル分野でヘッダーの識別ができるTM製品はF5のみです」と自信を見せる。

また、重要性を増すセキュリティ保護に関しては、認証・許可・監査までを統合管理し、DoS攻撃やウイルスに関しても、UIEが未確認パケットの内容を識別し、

iRulesがそれらをブロックすることで、大規模な攻撃を未然に防ぐことができる。ウェブサービスやモバイル市場を含めたさまざまなアプリケーションを一括して管理するというコンセプトは、効率化だけでなく新たなビジネスの発想も生み出しそうな予感がする。



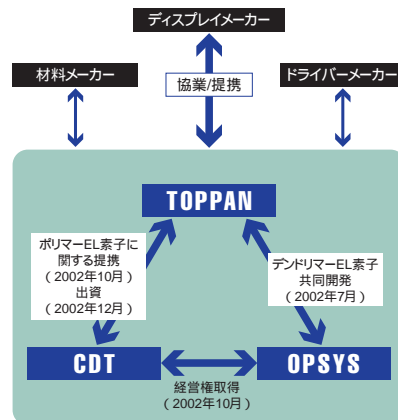
F5本社のエリック・ギーサ管理/プロダクトマーケティング部長、F5ジャパンのティム・グッドウィン代表取締役。

有機ELディスプレイの大型化、低価格化が加速 凸版印刷、有機EL開発ベンチャー2社と 戦略的提携

凸版印刷は11月28日、英Opsys社と有機ELディスプレイの分野で共同開発契約を結んだと発表した。Opsys社は1997年に設立されたベンチャー企業で、フルカラー有機ELディスプレイの新材料“デンドリマー”の開発がおもな事業内容だ。同時に凸版印刷は同じく有機ELディスプレイの材料“ポリマー-EL”の開発を進める英CDT(Cambridge Display Technology)社の株式取得についても発表を行った。このCDT社は、すでにOpsysの経営権を取得しており、この発表により3社の強力関係がより強固なものになったと言える。

今回の発表により、凸版印刷は“デンドリマー”と“ポリマー-EL”という2つの重要な技術を手に入れたことになるが、これに対して凸版印刷の生産・技術・研究本部長河合英昭常務取締役は、「ポリマー-EL素子

はすでに研究が進んでいて、長寿命化なども実現している。また、インクジェットなどの印刷技術を応用して簡単に製造できるのがメリット。ただ、溶剤に溶けにくく製造の際のディスプレイへの塗布プロセスで、生産効率が落ちる。対してデンドリマーは、まだ研究が始まったばかりで寿命も短いのだが、ポリマー-EL素子よりも溶解度も高いうえに発光効率も高い」と説明し、これら2つの技術のメリットを活かしながら凸版印刷の培ってきたディスプレイ分野でのネットワークや技術を活用し、有機ELディスプレイの大型化、低価格化を加速したいと述べた。3社は今後、共同でポリマーとデンドリマーを用いた有機ELディスプレイの開発および事業化を進めていく予定で、2007年を目処に実用化していきたいとのことだ。



3社の共同開発をベースに、ディスプレイメーカーなどとの協業、提携の確立は凸版印刷が担当することとなる。

Jump www.toppan.co.jp 凸版印刷)
Jump www.cdtttd.co.uk CDT社)
Jump www.opsys.co.uk Opsys社)

ウェブサービス標準化団体が初の仕様推薦案を発表

Jump www.ws-i.org/Profiles/Basic/2002-10/BasicProfile-1.0-WGD.htm

ウェブサービス標準化団体のWeb Services Interoperability Organization (WS-I)は10月29日、ウェブサービス構築の仕様書「Basic Profile Version 1」のドラフトを同団体のウェブサイトで公開した。この中では、企業の閉じたコンピュータシステムの運用ではなく、ウェブサービスを広範囲で利用する際に基本となる異なるシステム同士の相互接続性について記載され、特に今回は、メッセージプロトコル交換、言語記述、ディスカバリー、セキュリティの分野において、ウェブサービスのコア技術SOAP1.1、WSDL1.1、UDDI2.0で相互運用するための仕様が解説されている。

オン・ザ・エッチがライブドアのISP事業を引き継ぎ

Jump www.livedoor.com/info/021108.htm

オン・ザ・エッチは11月8日、インターネットプロバイダー事業などのライブドアの営業すべてを譲渡されたと発表した。ライブドアが提供してきたプロバイダーサービスは、同社により引き続き提供される。バックボーンについては先にフリービット・ドットコムと提携したため、ダイヤルアップ接続サービスの「livedoor 無料ベーシックサービス」と「OneID」の提供地域が日本全国へと拡大する。このため、アクセスポイントは全国共通の番号が用意され、これまでのアクセスポイントは順次利用できなくなる。なお、フレックスサービスとAirH、Economyシリーズについては今後も変更なく利用できる。

楽天とメガコンソーシアムがネットショッピングで提携

Jump www.rakuten.co.jp

楽天とメガコンソーシアム推進企業であるKDDI、日本テレコム、NEC、松下電器の4社は、ネットショッピング事業で提携することを10月28日に発表した。楽天は4社が提供しているプロバイダーサービス(DION、ODN、BIGLOBE、Panasonic hi-ho)の会員1000万人に限定したセールやイベントなどの独自コンテンツを提供する。提携事業の第一弾として、メガコンソーシアムの会員のみが参加できる「シークレットセール」を12月初旬より毎月1回、2週間程度実施する。今後、5社は定期的なプロモーションを企画していくとともに、決済手段の連携なども検討していく予定だ。

NTTネオमितと日本アパイアがIPコールセンターで事業提携

Jump www.avaya.co.jp/corporate/pressroom/2002/02_11_13.shtml

NTTネオमितと日本アパイアは11月13日、IPを利用したコールセンターの構築に関して、販売・運用・開発検証にかかわる包括的アライアンスの締結を発表した。NTTネオमितは、企業ネットワークの24時間365日のオペレーションノウハウや西日本400拠点にサービスセンターを持ち、日本アパイアはコールセンター向けの交換機市場でトップシェアを占めている。両社の業務提携は日本のコールセンターのIP化を促進するほか、サポートまで含めた広域のオペレーション業務で、地域密着型のシステムを提供する。これにより大規模コールセンターから小規模ニーズにまで対応できるようになる。

1対1のテレビ電話や4人同時通話のテレビ会議も可能 ケイ・オプティコムがIP電話サービス「TELvision」を eoユーザー向けに提供

ケイ・オプティコムは10月15日より、同社のインターネット接続サービス「eo（イオ）ユーザー向けに高品質なIPテレビ電話サービス「TELvision（テルビジョン）」を開始した。

TELvisionは専用ソフトをインストールしたPC間で、同社の光ファイバーネットワークを介したIP電話が利用できるサービス。一般の電話機での利用や公衆網への発信にはまだ対応していないが（将来的に対応予定）、音声による通話だけでなく、動画を利用したテレビ電話が可能なのが特長だ。同社の高速、高品質な光ファイバーネットワークを利用することで、スムーズな動画転送を可能にしている。

利用可能なユーザーは基本的に同社のサービス利用者のみとなるが、標準で専用IDが2つ提供されるため、そのうちの1つをほかのユーザーに貸与することで、eoユーザー以外とのコミュニケーションも可能となっている。専用IDは1IDにつき200円で、3IDまで（合計5ID）追加できるため（12月2日より追加可能）、同社以外のサービスを利用しているユーザーとの会話も手軽にできるようになっている。

しかも、TELvisionでは1対1の会話を

楽しむことはもちろんのこと、4人同時の通話なども可能となっており、テレビ会議などの用途にも利用できるようになっている。専用ソフトには、テレビ電話機能以外に文字チャット機能やファイル転送機能なども備えられており、さまざまな形態でのコミュニケーションが可能だ。

実際に利用する際は、eoユーザーサポートページ（www.kansai.com/eo/）から、「TELvision IPテレビ電話サービス」に登録して専用ソフトウェアをダウンロードし、インストールする。ただし、ハードウェア側はユーザー側での用意が必要となっており、別途、ヘッドセットやウェブカメラなどの機器を購入し、PCと接続してサービスを楽しむ必要がある。

なお、現在は12月2日からの本格提供を前にしたテストサービス期間となっており、「eoホームファイバー」と「eoメガエア」のユーザーのみが無料で利用できる期間となっている。しかし、12月2日からの本サービス開始後は、月額250円の料金が必要となる。

現状、ブロードバンド環境はホームページの閲覧やメールの送受信など、ナローバンドの時代と大差ない使い方がなされてい

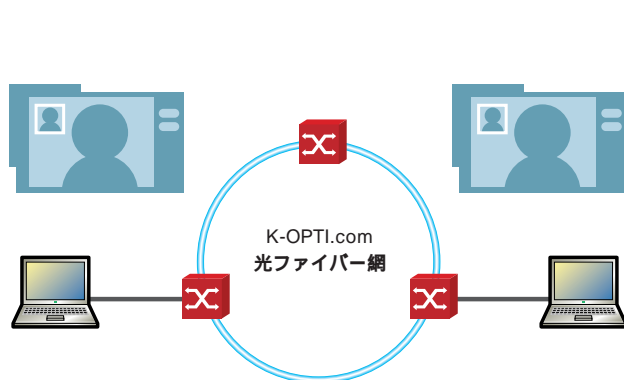


料金・サービス仕様

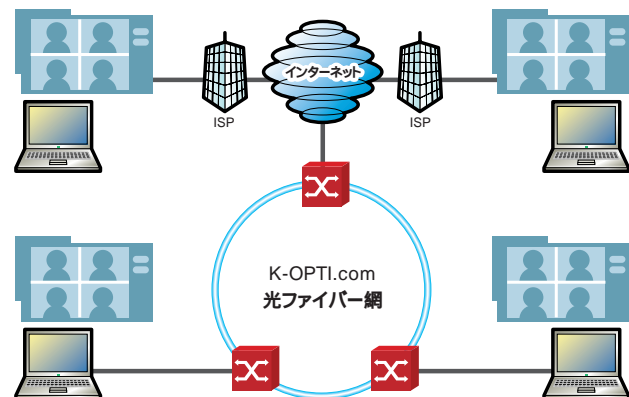
申込み条件	eoサービスを契約中のユーザー（当初はeoホームファイバー、eoメガエアのユーザーのみ対象）
初期登録費用	無料
月額基本利用料	250円/2ID（10月15日～12月1日の期間は無料で利用できる）
追加ID	200円/1ID 3IDまで追加可能（合計5ID）
必要なもの	インターネット回線（上下1.5Mbps以上推奨）、PCに接続されたウェブカメラ、ヘッドセット

るが、このTELvisionのようなコンテンツの登場により、本当の意味でブロードバンドを活用できる環境がようやく整いつつある。ブロードバンドをさらに楽しむには最適なサービスと言えるだろう。

テレビ電話の利用イメージ



テレビ会議の利用イメージ



プリント、スキャン、コピーの3機能を搭載

レックスマーク インターナショナルがコンパクトサイズの インクジェット複合機「Lexmark X75 PrinTrio」を29,800円で発売

レックスマーク インターナショナルから、コンパクトサイズの多機能インクジェットプリンター「Lexmark X75 PrinTrio」が発売された。

同製品は、1台でプリンター、スキャナー、コピーの3つの機能を備えたいわゆる複合機。プリンターの上部にスキャナーを統合させたようなデザインをしており、通常のプリント機能に加え、スキャナーで読み込んだ原稿のPCへの取り込みやコピーが可能となっている。製品名に「Trio」と名付けられているのも、このように1台の機器で3つの機能を併せ持っているからだ。

このようなインクジェットプリンターをベースとした複合機は、他社からもいくつか発売されているが、Lexmark X75 PrinTrioの最大の特長は、本体サイズがコンパクトである点だ。外形寸法は幅460×奥行き337×高さ168mmとなっており、インクジェットプリンターとほぼ同じ設置面積になるようにデザインされている。複合機ということで、本来3台の機器が必要なところが1台で済むだけでも重宝するが、サイズがコンパクトであるため、さらに省スペースに一役買うことができることになる。

機器の性能も申し分ない。プリンター部

分は2400×1200dpiの解像度を誇り、写真などを美しく印刷することができる。また、スキャナー部分もカラー48bit入力の階調に加え、読み取り解像度も9600dpiとパワフルな性能を持ち合わせている。場合によっては、複合機を導入したものの結局性能不足で、別々の機器を用意せざるを得なかったというケースがよく見られるが、本製品であれば性能的に見劣りすることはないだろう。

しかも、本体に付属するFAXソフトをインストールすれば、スキャンしたデータをPCからそのままFAX送信することも可能となっている。もちろん、このソフトではFAXをカラー受信することも可能だ。つまり、本体としては3つの機能となるが、さらにPCと組み合わせることで、都合4つの機器として利用できることになる。このようにさまざまな機能を1台で利用できるのは大きなメリットと言えるだろう。

このほか、名刺をスキャンするだけで住所録や宛名リストを手軽に作成できる「eContact」の体験版ソフトが店頭で配布されたり、スキャンした文書をテキストとして読み取ることができるOCRソフト「e.Typist」が同梱されたりするなど、同製品



Lexmark X75 PrinTrio
標準価格：29,800円

を活用するためのアプリケーションも用意される。

気になる価格だが、インクジェットプリンター単体とほぼ同レベルの29,800円に設定されている。前述したように、さまざまな用途に使える複合機であることを考えると、非常にリーズナブルな価格設定だ。

なお、サポートに関しては、即日交換品を送送する「LexExpress」が適用されるようになっている。このため、万が一の故障などで何日も使用不能になるなどの最悪のケースも回避でき、すばやいたラブル対処が可能だ。機能的な面で充実していることはもちろんだが、このように安心して利用できる点もLexmark X75 PrinTrioの特長と言えるだろう。

SOHOや小規模オフィスといった現場では、設置スペースの問題やコスト的な問題から、複数の機器を導入することが難しいケースも多い。しかし、Lexmark X75 PrinTrioのような複合機であれば、設置スペースやコストの問題も解決できる。プリンターの買い換え、スキャナーやコピーの新規導入を検討している場合は、この製品も選択肢の一つとして加えておくべきだろう。低価格ながら、非常に完成度の高い製品で、高く評価できる。

Lexmark X75 PrinTrio仕様

印刷方式	サーマルインクジェット
最高印刷解像度	2400 × 1200dpi
印字速度	カラー：6ppm、モノクロ：11ppm
用紙サイズ	A4/レター/B5/A5/A6/ハガキ/パナール(A4)/L/2L/封筒(長形3・4・40号/角形3・4・5・6号)ユーザー定義
対応用紙種類	普通紙、ハガキ、ラベル、封筒、パナール、グリーティングカード、インクジェット専用紙(フォト用紙、光沢紙、コート紙、OHPフィルム、アイロンプリント紙)
インターフェイス	USB1.1/2.0
外形寸法	W460 X D337 X H168mm
本体重量	約4.5kg
対応OS	9 Windows XP/2000/Me/98、Mac OS X(10.1.5以降)Mac OS 9.2.2

スキャナー	タイプ	フラットベッドCIS
	解像度	光学 600 × 1200dpi
	階調	カラー：48bit入力、24bit出力 白黒：16bit入力、8bit出力、文字/線画1bit(2値)
コピー	最大スキャン範囲	216 × 297mm
	モード	カラー/モノクロ
	スピード	カラー：2cpm(1枚目) 4cpm(2枚目以降) モノクロ：4cpm(1枚目)9cpm(2枚目以降)
	連続複写枚数	1～99枚
	拡大/縮小	25～400%



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp